

第23回京都府次世代自動車普及推進協議会 議事概要

- 1 日 時 平成29年9月4日（月） 午後3時から午後5時まで
- 2 場 所 御所西 京都平安ホテル「朱雀の間」
- 3 出席者 自動車等メーカー、電力会社、学識経験者、経済団体、行政等
計20名
- 4 議 事 京都府電気自動車等普及促進計画の改定中間案について

【主な内容・意見】

- 計画全体としてバランスのよいものとなっているが、京都府としての特色が無いように感じられる。
- 世界に目を向けると、今年に入り各国が競ってEV等の普及を加速させている。観光都市として京都府が持っている高い発信力を活かし、普及に向けた世の中の動きを牽引していただきたい。
- EV等の目標値を2020年度末時点で18,000台とした場合、今後、年90%の増加率が必要となるが、これを達成するためには、規制施策等による強力なインセンティブが必要である。
- ターゲット（例えば、タクシー業界、トラック業界等）を明確にし、業界毎に必要な能力について、PRをするとよいのではないか。
- 集合住宅居住者向けの施策として、ワークスペースチャージングや、既設集合住宅への充電器設置を推進すべき。
- GSが減少している過疎地域では平常時の生活の足や災害時等は非常用電源として、EVの活躍が期待できるため、重点的にEV普及を推進すべき。具体的には、公共交通機関の代わりに、カーシェアリングの仕組みを活用できないか。
- 医療・福祉施設等、対象を絞ってより手厚いEV等の導入支援を行うことも検討されたい。
- EVについては、航続距離が短い、充電時間が長い、電気が足りなくなる等、様々なネガティブな情報があるが、一般の人が感じるそれらの不安材料を解消することが必要である。

- 整備のための専用機器が高価であること等から、現状では自動車整備工場のEV等への対応は難しいとされているが、自動車整備工場を活用できなければ、EV等のさらなる普及は見込めないのではないか。
- 産業振興に関しては、EV・PHV関連の取組がこれまで進められてきたが、FCV、水素関連技術についても、今後裾野が広がっていくと思うので、強力に進めていただきたい。